

# 広域連携だより



松江教育事務所管内 広域特別支援連携協議会 事務局

第10号

〒690-0011 松江市東津田町 1741-1 TEL 0852-32-5772 Fax 0852-32-5770 平成30年3月発行

広域特別支援連携協議会は、文部科学省の特別支援教育体制整備の推進事業として各教育事務所ごとに設置されています。松江教育事務所では、特別支援教育に携わっている10名の方に今年度は委員をお願いし、年2回の協議会を開催し、管内の特別支援教育の推進、充実を図るために情報交換や意見交換を行っています。また、幼稚（保）園や小・中学校、高等学校、特別支援学校の先生方を対象とした特別支援教育研修会を行っています。この連携だよりでは、広域連携協議会と特別支援教育研修会の概要をお知らせいたします。

## 広域特別支援連携協議会

第1回開催 平成29年9月28日

第2回開催 平成30年2月27日

今年度テーマ：「一貫した支援体制のために  
～「気づき」「支え」「つなぐ」体制づくり～」

第1回連携協議会では、島根県教育委員会特別支援教育課の奥原千幸指導主事より、平成29年3月に文部科学省が作成した「**発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～**」について説明をしていただきました。

＜平成16年のガイドライン（試案）の見直しの観点＞

- ①障害により教育上特別の支援を必要とする全ての児童等に拡大。
- ②幼稚園及び高等学校等も加え、進学時等における学校間での情報共有（引継ぎ）の留意事項について追記。
- ③関係者の役割分担及び必要な資質を明確化。
- ④養護教諭の役割を追記。
- ⑤特別支援学校のセンター的機能の活用及びその際の留意事項等を追記。

※まだ確認をしてもらえない方はぜひ**文科省HP**で確認を！

★切れ目のない支援をどうつないでいくかがキーワード★

第2回連携協議会では、松江緑が丘養護学校の小林律恵先生から「五輪ネット中・高コーディネーター情報交換会の中で見た課題」、松江農林高等学校の柏木好恵先生から「中・高連携のあり方について～事例を通して～」について情報提供をしていただきました。

今年度開催した第1回、第2回連携協議会では、特に『つなぐ』体制づくりについて、情報共有や意見交換を行いました。委員の方の発言を一部紹介いたします。

- ★学校でも「ガイドライン」を使って研修をするとよい。とても良いものができるが、学校で共通理解をしていないところが多い。「ガイドライン」を知らない教職員がたくさんいる。
- ★「だんだんファイル」が徐々になくなってきている。個別の教育支援計画を本人、保護者、学校、関係機関で一緒に作っていくことが大切になってくるのではないかな。
- ★体制整備はかなり進んでいるが、自己理解は課題である。中学校では教科担任制になるので、教職員で共通理解しておく必要がある。中・高のつなぎは課題がある。個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成している生徒でもきちんと引継ぎができていないこともある。口頭の引継ぎで終わっているケースもある。
- ★中学校側とすれば、高校から情報を求めてもらえるのは嬉しく、引継ぎのきっかけになっている場合が多い。ただし、中学校にとってみれば高校側からの求めに応じるようなスタイルばかりでなく、大切に育てた生徒が高校でもより成長していけるような取組が展開されるようになればいいと思う。

\*障がいの「がい」の字は引用文等においては、漢字で表記している場合があります。

# 特別支援教育研修会 平成29年12月12日

今年度の研修会では、発達障がいの子どもの大人になった時の将来像について考え、「キャリア教育」の必要性と、そこで周囲の大人が心がけるべきことは何か、また自立に向けた「はたらく力」とは何か、それを身に付けるにはどのようにすればよいかを、首都圏の放課後サービス TEENS で発達障がいのある子どもの直接指導、発達障がい児向けキャリア教育プログラム開発をしている、株式会社 Kaien 教育事業部執行役員の飯島さなえ様に講演をしていただきました。今回の研修会には約80名の幼稚園から高等学校までの校種や職種も様々な方の参加がありました。発達障がいについて、幼少期から就労までの一貫した取組や実態を知ることができ、また各学校での事例に対する質問に具体的なアドバイスをしていただき、大変多くのことを学ぶことができました。



## 講演

「～適職からデザインする～」

発達障がいのある子どものキャリア教育

講師 株式会社Kaien 教育事業部執行役員 飯島さなえ 氏

## 講演の概要:レジュメより

### ★当社紹介

発達障がいの方が強み・特性を活かした仕事に就き、活躍する事を応援する

### ★将来を逆算する支援のありかた

早め早めのキャリア教育  
「自立する」とはどういうことか

### ★発達障がいとは？

こんな子いませんか？ どこからが発達障がい？  
代表的な発達障がい いつ誰が診断するの？

### ★事例紹介 特別支援後の姿

ケーススタディ  
一般枠・障がい者枠

## 参加者の感想 (一部抜粋)

- ★担当している子どもの将来を想像しながらお話を聞いた。きちんと関わる者がそのあたりのことも考えることが大切だと感じるとともに、今何ができるのかをしっかりと考えていきたいと思った。【幼稚園】
- ★目の前の子どもの対応のみでは限界があり、将来を見通して子どもを見たいと思っていた。「挫折はしない方がいいが失敗は経験した方がいい」「失敗しても大怪我にならない範囲で経験して、何とかやれたという成功体験につなげていく」など、失敗体験の必要性と成功体験の大切さを改めて感じた。【小学校】
- ★はたらく力を育てることについて、コミュニケーション力、段取り力、自尊心が大切であることを確認した。3つの力が少しずつ培われるように、授業を意識していきたい。【中学校】
- ★将来を逆算する支援のありかたについて、はたらく力とは何か、どう育てるかは、発達障がいにかかわらず大切なことだと思う。逆算という考え方にとても共感を覚えた。【高等学校】
- ★幼少期から就労までの一貫した取組や実態を知ることができ、どの参加者にも参考になったのではないと思う。各学校での事例に対する質問に答えていただけで有難かった。【特別支援学校】
- ★幼児期から就労期まで、幅広い支援の方法、特にキャリアステージの考え方がとても新鮮だった。学校では必要と思っけていてもなかなか取り組めない現状があるが、工夫面が具体的に知れてよかった。【行政】



## 専門家チーム会議・巡回相談

専門家チーム会議とは、管内の学校等に対して、障がいのある幼児・児童・生徒への相談支援を行うために各教育事務所ごとに設置されている相談支援チームです。今年度は、医師、教育、福祉等の専門性の高い10名の方に委員兼巡回相談員をお願いしました。学校からの要請により、市教育委員会等から申請されたケースについて①LD等であるか否かの判断、②望ましい教育的対応を、専門家チーム会議を開いて協議を行い意見を出します。今年度は中学校から3ケースの申請があり、平成30年1月25日(木)に専門家チーム会議を開催し、話し合いを行いました。

＜お知らせ＞ 広域特別支援連携協議会は、特別支援教育に係る体制整備が進み当初の目的を達成したことから、平成29年度で終了(隠岐を除く)となります。(研修会については継続します。)